

令和元年度第1回（第47回） 浜田市行財政改革推進委員会 会議録

日時 令和元年7月25日（木）9時50分～11時20分

場所 浜田市役所5階 全員協議会室

[進行／行財政改革推進課長、光延会長]

開会（9:50）	
行財政改革推進課長	<p>若干定刻より早いですが、皆さんお揃いですので、只今から令和元年度第1回浜田市行財政改革推進委員会を開会します。</p> <p>はじめに、この会議は、公開で行いますのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、光延会長からご挨拶をお願いします。</p>
1 あいさつ	
会長	<p>皆様、おはようございます。梅雨がなかなか明けないということで、昨日、四国、九州は明けたようですが、今朝は浜田も久しぶりに良い天気です。夕方のニュースで梅雨が明けたと言われることを期待しています。また、近年は災害が非常に多く、そのことにも留意しなければならないと思います。</p> <p>本日も皆様の闊達な意見をいただきながら進めていきたいと思っております。</p>
行財政改革推進課長	<p>それでは、本日の資料を確認願います。</p> <p>本日、追加資料として、レジュメと出席者名簿、資料3議会特別委員会の意見要旨、資料4事前受付分意見等をお配りしています。また、事前送付しました資料1計画書暫定版、資料2財政効果額集計表、参考資料事務事業評価の実施結果（抜粋）をご持参いただきましたでしょうか。資料があるかご確認ください。</p> <p>次に、本日の欠席者をお知らせします。レジュメ1ページの「浜田市行財政改革推進委員会委員名簿」をご覧ください。2番目の豊田副会長は遅刻と伺っております。堂端委員、新田委員、馬場真由美委員、矢野委員が所要のため欠席されています。</p> <p>次に、市職員は、2ページに「浜田市行財政改革推進本部幹事名簿」を掲載しています。紹介は割愛させていただきます。</p>
行財政改革推進課長	<p>ここで、前回の会議内容と、本日の協議内容を確認いただきます。</p> <p>前回は、今年3月14日に、会長及び副会長を選出していただきました。その後、「スポーツ施設再配置・整備計画（案）の検討経過」につきまして状況を報告し、ご意見をいただきました。</p> <p>本日は、協議事項が1点ございます。「行財政改革実施計画の平成30年度実績及び令和元年度計画（案）」についてご協議いただくこととしています。</p> <p>会議の終了は11時30分を予定しておりますので、進行にご協力いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは、以降の議事進行は光延会長をお願いいたします。</p>

2 協議事項 行財政改革実施計画平成 30 年度実績及び令和元年度計画(案) について	
会長	<p>それでは、協議事項に移ります。</p> <p>「行財政改革実施計画平成 30 年度実績及び令和元年度計画(案)」について、事務局から説明をお願いします。</p>
行革推進係長	<p>「行財政改革実施計画平成 30 年度実績及び令和元年度計画(案)」について説明させていただきます。</p> <p>(資料 1、資料 2 の見方、主な項目について説明)</p>
行革推進係主任主事	<p>続いて、資料 3をご覧ください。(資料のポイントのみ説明)</p> <p>次に、委員から事前に頂戴した意見等について、お答えさせていただきます。お手元の資料 4をご覧ください。こちらには、事前にいただいた意見等を掲載しています。</p> <p>まず、「1-(1)-7 人事評価制度の導入による人材育成と処遇反映」、「1-(1)-8 業務の質・量に応じた適材適所な人員配置」、「1-(1)-9 定員適正化計画の管理・推進」です。人材育成や計画的な職員採用についてご意見を頂戴しておりますので、総務部長からお答えします。</p>
総務部長	<p>まとめて回答いたします。</p> <p>人事評価制度については、職員の人材育成を大きな目標とし、公平・公正な処遇、職員の能力開発などを主な目的としています。平成 30 年度上期の実績から全職員を対象として、平成 30 年 12 月の勤勉手当に反映し、以降、取組を進めています。</p> <p>また、昨年度は新たな定員適正化計画を策定し、退職者数の 3 分の 2 採用を原則に、10 年間で職員数 88 人分の削減を進めるものです。</p> <p>一方で、以前の定員適正化計画は、退職者数の 3 分の 1 採用としていましたので、その間の職員採用が少なく、職員の年齢構成が歪になっています。その辺の是正も今回の定員適正化計画では重要なことだと思っており、特に 30 代前半の職員が少ないため、社会人経験者枠で 35 歳までの方の採用にも取り組んでいるところです。</p> <p>いずれにしても、職員の能力開発、人材育成、限られた職員数で良い仕事をするための適正な配置等も重要と考えています。</p>
行革推進係主任主事	<p>次に「1-(1)-34 浜田市教育文化振興事業団のあり方見直し」です。事業団の組織改編と資料館の整備についてご意見を頂戴しておりますので、教育部長からお答えします。</p>
教育部長	<p>指定管理者が管理する施設の全体収支が毎年赤字ですので、その解消のための抜本的な対策として、適正で効率的な組織となるよう事業団の組織改編を進めていく必要があると考えています。</p> <p>併せて、資料館について、整備することとなりましたら、ランニングコストにも十分に留意したいと考えています。</p>
行革推進係主任主事	<p>次に「1-(2)-7 投開票事務従事経費の縮減」です。民間の方、特に学生や若い方の起用についてご意見を頂戴しておりますので、総務部長からお答えします。</p>

総務部長	選挙事務の関係では、若者や臨時職員の活用は非常に重要とっています。特に、選挙権が18歳に引き下げられたことで、若者にも選挙に参加いただくという意味から、県立大学の学生には、投開票事務だけでなく、事前準備からアルバイトで参加していただく等の取組をしています。今春の県知事、県議選の時には、公報の仕分け業務、期日前投票の対応、当日の投開票事務にも関わっていただいています。臨時職員の希望者を募って投開票事務等にご協力いただいています。公報の仕分け等は多くの人員が必要ですので、シルバー人材センター等も活用させていただいています。
行革推進係 主任主事	次に「1-(2)-8 市民、地域との連携強化（地区まちづくり推進委員会の設立推進）」です。まちづくりにおける地域との連携についてご意見を頂戴しておりますので、地域政策部長からお答えします。
地域政策部長	これからの地域の課題解決に向けて、行政サービスだけで対応していくことは非常に難しくなります。住民自治の原点は、住民の意思に基づき、地域のことは地域自ら解決していくことと考えます。そのための大きな仕組みの一つが、地区まちづくり推進委員会ですので、その設立支援や活動支援に向けて、行政も力を入れていきたいと考えています。今後も地域に出向き、地域との連携や住民主体のまちづくりの大切さについて、引き続きご説明しながら、意識の醸成に努めたいと思います。
行革推進係 主任主事	次に「1-(2)-9 協働の推進」です。公民館のコミュニティセンター化についてご意見を頂戴していますので、地域政策部長からお答えします。
地域政策部長	今後の協働のまちづくりを進める方向性として、新たな理念条例の制定と、公民館のコミュニティセンター化を打ち出しました。多くの市民の皆さんにご理解いただけるよう、特に公民館のコミュニティセンター化については、地域や公民館職員の意見を伺い、十分な説明を行いながら取組を進めていきたいと考えています。
行革推進係 主任主事	次に「2-(1)-5 指定管理者制度の効率的な運用」です。モニタリング等の行政責任についてご意見を頂戴していますので、総務部長からお答えします。
総務部長	公の施設の管理運営につきましては、指定管理者制度を推進するという原則があります。これは民間のノウハウを活用して、より良いサービスを維持するという考え方で、一方で、施設を所管している行政としての責務がありますので、施設の管理状況の把握等も重要なこととっています。定期的にモニタリングを行い、チェック、ヒアリング、現地調査等も行っています。特に収支だけでなく、労働条件等も重要な要素とっていますので、併せて確認しているところです。
行革推進係 主任主事	最後に「2-(1)-15 学校給食施設の統合」です。学校給食の在り方についてご意見を頂戴しておりますので、教育部長から発言いたします。
教育部長	貴重なご意見として承らせていただきます。引き続き、学校統合計画の進捗も踏まえて、食育、地産地消等の推進に向け、検討を進めたいと考えております。

行革推進係 主任主事	説明は以上です。
会長	それでは、平成 30 年度実績と令和元年度計画（案）について皆様方からご意見やご質問等をお願いしたいと思います。発言される場合は挙手をお願いします。
坂東委員	P49「放課後児童クラブの効率的運営」で、目指す将来像に、「民間のノウハウを導入することにより」とありますが、浜田市内で民間のノウハウを持っている業者がありますか。また、仮に市内にない場合、例えば松江の業者に委託するというのを考えていますか。
健康福祉部長	恐らくノウハウを持っているところはないのではないかと思います。島根県内にも民間業者が運営しているところがあると聞いていますので、そういった業者も委託先の一つになると考えています。現状として、地元で運営委員会を作って運営いただいているところもありますし、仮に、保育園等を運営している社会福祉法人が放課後児童クラブを運営してもよいという話があれば、委託先の一つになるかと思えます。
坂東委員	それでは、広島等の業者が委託を受けるといことはないと捉えてよろしいでしょうか。
健康福祉部長	今のところは考えていません。
三浦委員	放課後児童クラブの現状を支援員の方々から聞きますと、例えば、一人でも熱中症になると休ませる場所がないというような問題を多く抱えているそうです。浜田市の将来を担う子どもたちを預かり、厳しい環境の中で、支援員の方々も必死でその任に当たっています。 もしこれが民営化になると、待遇面、施設面等で、将来を担う子供たちを預かる、育てるという意識、精神がなくなるのではないかと心配しています。民間委託の方向性が出ていますが、行政が市民の税金を預かり、その使い道として、子供たちを安心安全な環境の中で、保育園から放課後児童クラブ、小学校、中学校と育てていくべきものだと思いますので、反対意見として申し上げます。
健康福祉部長	支援員の方々からは、できる限り現場の状況や意見を伺うようにしています。確かに支援員の担い手も非常に少なく、人の問題もあるため、待遇改善にも取り組んでいます。スペースの問題があることも承知しています。例えば石見小学校ですと、新しく放課後児童クラブの建物を建てる等の努力もしています。委託先のご心配もごもっともですので、サービス低下に繋がらないよう、評価と検証をしながら進めて行きたいと考えています。
岡本委員	P44 や P45 のまちづくりや協働の推進については、現在、コミュニティセンター化についても盛んに議論をしていますが、なかなか説明が難しいと感じています。市民との協働可能な事業を検討し、協働を進めることとなっており、平成 28 年度の計画にも協働事例集を作成し、市民に情報提供するとなっています。地域の中で機運を盛り上げ、話題を共有するためには、わかりやすい資料を提示して頂いて、それに基づいて説明するという

	<p>順序が必要です。そうでないと、理解が進まないまま、不満が残り、今の ような状況になります。このあたりについて、いかがでしょうか。</p>
地域政策部長	<p>地域が抱えている課題は様々あり、地域によって内容が異なります。全 般的な事例集ということで、様々な課題に対する取組事例は紹介してきま した。ただし、個別の事情で地域がお困りのことに対して、丁寧に情報が 伝わっているかどうかは、今後の課題でもあるかと思っています。行政は、 そこをサポートするという役割もありますので、地域にあった事例の紹介 などを含めて、しっかりご理解いただけるようなサポートをしていきたい と思います。</p>
小倉委員	<p>P34 で平成 30 年度元気な浜田事業が 36 項目ありますが、No.31 の浜田開 府 400 年記念イベント事業だけが A 評価、そのほかは B 評価以下、それも D 評価、E 評価がかなりあり、元気な浜田をつくるのに A 評価が 1 つとい うのは、いかがなものかと思っています。D 評価（手法見直し）でしたら、見直し 内容がないと、なかなか次に進みませんし、そもそも A 評価が増えないと、 元気な浜田事業にならないと思います。事業そのものをもう一度見直して いくべきではないかと思っています。</p>
総務部長	<p>事務事業評価の経過をご説明させていただきます。元気な浜田事業は、 久保田市長が就任以来、浜田を元気にするための別枠予算として、ソフト 事業を中心に期間限定で重点的に取り組んできた事業です。年数も経過し ましたので、このまま継続すべきかをチェックする意味で、昨年度、行財 政改革推進委員会の中に、光延会長を中心に当時の公募委員等で部会を作 っていただき、事務事業評価を行いました。その中で、多くの事業がある 程度年数が経過したため、費用対効果等を考慮して手法を見直すべきでは ないか、また、役目が終了した事業は終了してよいのではないかと、とい う評価を行いました。</p> <p>D 評価のものについても、より良い事業となるように予算要求等も考え ながら見直すものですので、行財政改革の視点からチェックをしたとい うことをご理解を頂ければと思います。</p>
久保田委員	<p>P18 の時間外勤務の抑制についてですが、定員適正化計画が実態に合っ ているのでしょうか。職員数を減らすことによって、個々の業務量の増加 によって残業も増え、結果として健康を害すこともあるかもしれません。 人を減らすことが良いことではなく、本当に必要であれば、人員を揃える べきだと思います。業務の非効率化を招いたり、行政サービスが遅延した りすることがあってはならないと思いますので、この辺りはいかがなもの かお聞きします。</p>
総務部長	<p>できる限り時間外勤務がないように努力していきたいと考えています。 特に働き方改革で、法律上、月 45 時間以内、年次有給休暇 5 日以上取得と いうルールができていますので、それに準じて進めたいと思っています。</p> <p>一方で、浜田市の財政状況は、人件費がかなりのウェイトを占めており、 それをいかに圧縮するかも重要なことと思っています。浜田市は年間 400</p>

	<p>億円近い予算を組んでおり、類似団体と比較すると予算規模が大きく、それだけ仕事量があるということで、限られた人数でやろうとすると時間外勤務が発生します。合併後 10 年余り経ち、人口が減少し、交付税も削減される中で、この財政規模を維持することも難しくなっており、事務事業評価等で事業を削減しながら人も減らすよう取り組んでいます。市民の皆様への行政サービスが低下しないよう事務を効率化、削減し、時間外勤務も 100 時間を超えると過労死ラインと言われていいますので、そのようなことがないよう抑制しつつ、特定の職員に業務が偏らないように配慮し、退職者の 2/3 採用を基本に、進めていく考えです。</p>
久保田委員	<p>行政サービスの低下を防ごうと思うと、当然それなりの人、お金が必要だと思えます。先ほど来、民間委託はどうかという意見も出ていますし、年間 400 億円の手厚い予算を組まれていて、将来的にどうかという話もあります。そう考えると、浜田市は行政サービスを落とさないように頑張っているが現状を維持できない、ということをもっと真剣にアピールしていただきたいと思えます。溝蓋の整備や草刈りなど、市や県、議員に言えばどうにかなるのではないかと、という話をよく聞きますが、自分たちのことは自分たちでやらないといけない部分もあると思えます。少し頑張ればできることは自分たちでやる、という雰囲気づくりをしないといけないのではないかと思います。行財政改革の一環でこういった取り組みをしていることをアピールする必要もあるかと思えます。地域住民に、浜田市が頑張っていることが伝わっていないことを危惧しています。</p>
総務部長	<p>地域のことはなるべく地域でしていただきたく、草刈等が大変という意見もいただいていますので、道路、河川の草刈については昨年度から補助単価も上げ、なるべく対応していただいています。一方で、地域で色々なことをしていただくという考えの一つが、コミュニティセンター化、まちづくりのやり方見直しだと思います。行政も支援しながら、地域のことをなるべく地域で解決していただくような取組をすることにより、行政と地域、市民の皆さんとの連携を強化しながら、行政サービスを維持するという考えで取り組んでいますので、久保田委員のようなお考えの方が増えるよう努力してまいります。</p>
岡本委員	<p>先ほどの意見に賛同し、続けて発言させていただきます。市民の方は、市がこれだけたくさん事業をしていることを知らないと思えます。制度を知らないから使わず、結果としてその事業の評価が下がるという状況もあるかと思えます。各課で色々な事業があると思えますが、弥栄支所では補助事業の一覧表が各戸に配られています。本当に細かいことまで入れるともものすごい量になるでしょうが、市として各課でどのような事業をされているか、わかりやすい表を作成して、広報することはできないでしょうか。そうすれば、自分たちでやる、というような機運も出てくるのではないかと思います。ホームページを見てくださいますので、広く広報できるような方法を考えていただければよいと思えます。</p>

総務部長	現状を言いますと、市長の施政方針に基づき、予算が決まりましたら、主な事業、浜田市の予算、決算状況等を広報誌等に掲載しています。市民の皆様にはわかりやすい広報の仕方は重要だと思いますので、広報はまだに載せるだけでなく、PR方法を工夫し、市の施策等をよりご理解いただけるよう、検討させていただきます。
榎岡委員	P64の道路施設の長寿命化計画の策定及び推進について、今宮トンネルが短いわりに暗く、事故の心配をしております。これまでに、このトンネルについて、何か議論をされたことがあるのでしょうか。
建築住宅課長	このトンネルは島根県が管理しているトンネルです。以前そういった意見があったかは把握していませんが、県に打診してみます。
榎岡委員	すぐにやることは大変だと思いますが、事故が起きないうちに対応をお考えいただければ嬉しいです。
建築住宅課長	トンネル内で点けていない照明もあるかと思いますが、それらが点けられるのであれば、すぐに対応できるかと思いますが。新たに照明を付け替えるとなると、費用と時間がかかるとは思いますが、そういうことを含めて県に打診したいと思います。
馬場真二委員	P72の提案型有料広告事業について、単年度の実績15万円をどのように評価されているのか、計画終了となっているのはもう募集しないということか、利用者の広告の効果を聞いていれば教えてください。
行財政改革推進課長	<p>計画の30万円に対して実績が15万円ということですが、昨年度途中から2年間、公用車の後方に帯状の広告を掲載しています。また、今年度からは、本庁舎に広告付き玄関マットを設置しています。少しずつ実績が出てきている状況ではありますが、提案数は伸びていないのが現状です。</p> <p>「計画終了」としているのは、有料広告事業を実施することを目標にしていたため、制度を実施導入した時点で終了として扱います。引き続き募集は行いますし、財政効果は今後も追っていきます。</p> <p>事業者の効果としましては、聞き取りはしていますが、効果があったという声は何えていないのが実情です。今年度から始めている玄関マットについては、市と事業者に問い合わせはありましたが、効果があった、売り上げにつながった等の効果までは把握できていません。</p>
馬場真二委員	うまく目につくように広告自体を広報すれば、また希望者も増えて市の収入にもなるかと思いました。
3 その他	
会長	続きまして、その他の案件について、事務局から連絡等がありましたらお願いします。
事務局	<p>それでは、今後の予定について事務連絡をさせていただきます。</p> <p>次回の会議は、10月頃に開催する予定です。議題は、「公共施設再配置実施計画の別冊（令和元年度版）（案）」と「スポーツ施設再配置・整備計画（案）」についてご審議いただく予定です。開催日時は、9月頃にご案内させていただきますので、よろしく申し上げます。</p>

会長	全体を通じて、ご意見等はございませんか。
坂東委員	今年度の丸山知事の島根創生計画で「心豊かな社会をつくる」、「スポーツ・文化芸術の振興」という骨子があります。例えば、浜田市教育文化振興事業団のあり方見直しでは、どんどん削除する方向性ですが、長期的に見て、逆に大きくしてプロフェッショナルを育て、文化振興や住民サービスにつなげる方向性もいいと思います。仮に委託した場合、委託先によっては赤字が増え、施設の廃止という悪循環が生まれかねないので、事業団があるので、それを育てていくのがよいと思います。
教育部長	坂東委員も構成員になっておられる歴史資料館の検討会でも、費用面もそうですが、施設の利用を今後伸ばしていくためには、経営なりマネジメントが大事だという意見をいただいております。仮に歴史資料館をつくるのであれば専門の館長を、という意見も出ていますので、大事に育て、長く皆さんに喜んでいただけるようしっかり検討させていただきます。
三浦委員	まちづくりの協働について、現在浜田市内には対象人口が全く違う公民館がありますが、その公民館が同じように協働の事業をやっていく体制になっていると思います。人口規模や施設の違いを踏まえた上で、今後の見通しを教えてください。
地域政策部長	公民館のコミュニティセンター化を考えたときに、公民館エリアの人口規模は全く違います。公民館職員さんも、コミュニティセンター化した場合、どこまで関わるのかという不安があると思います。社会教育を基本に公民館活動をされていますが、コミュニティセンター化するときは、人員配置、事業費は少し膨らませなければいけないという思いはあります。状況に応じてどこまでまちづくりの部分に踏み込めるかは、公民館の中の条件を考えながら進めていくこととなりますが、公民館の活動が大きければ大きいほど、限られた職員だけでは踏み込めるところには限界が出てきますので、そうした課題については、スタートを切った後に、その後どのような体制とるかという議論を進めることになるかと思います。今すぐ公民館を同じく均一に活動しやすい規模に区切るのは現実的に難しい話ですし、地域の資源、人的資源等も地域によって違いますので、そうしたところをそれぞれの公民館でも、お考えをいただくスタートにしたいというのが、コミュニティセンターをスタートする時の考えになろうかと思います。
会長	そろそろ時間ですので、最後に近重副市長からご挨拶いただきたいと思っております。
副市長	熱心にご審議いただきありがとうございます。放課後児童クラブの民間委託化につきましては、保育園の時もそうでしたが、様々なご意見があるところですので。民間委託する場合は、きちんと運営できるところに委託しなければならないので、しっかりと検討する必要があると思います。 市の嘱託、臨時職員については、来年度から会計年度任用職員という新たな雇用に変わり、人件費が3億円程度上がる見込みです。そういった部分も含めて、市としてどうするのかは大きな検討課題となっております。しっ

	<p>かりと行革を進めなければなりません。先ほど定員適正化の話もありましたが、時間外勤務の抑制、事業の廃止をしないと、少ない人数で市民サービスを全てやることは無理がありますので、事業を精査し、市民の皆さんには痛みを感じていただく部分もあるかもしれませんが、検討する必要があります。その際には、先ほど協働のまちづくりの話がありましたが、行政にできない部分は市民の皆さんに協力していただくことも必要になるかと思っておりますので、ご支援、ご協力をお願いします。人員をどうするかということは、大きな検討課題となります。30代前半の職員が極端に少なく、これからの市の行政を支えていく年代が非常に薄くなっておりますので、これから検討をしていかなければならないと思っております。</p> <p>行財政改革実施計画の進捗については、現時点では順調に進んでいると思っております。これからもご支援、ご協力のほどよろしく申し上げます。</p>
<p>会長</p>	<p>以上をもちまして浜田市行財政改革推進委員会を終了します。</p> <p>長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。</p>

(午前 11 時 20 分終了)